
第5回アニメキャラ限定 脱出ゲームDERO!

よしかず

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第5回アニメキャラ限定 脱出ゲームDERO！

【Nコード】

N1056X

【作者名】

よしかず

【あらすじ】

今回は、生徒会役員共の桜才学園生徒会とSKET DANCEの開盟学園生徒会が対決。
果たして勝つのはどの生徒会か・・・。

参加者の紹介（前書き）

今回でこのDERO!シリーズはひとまず終了となります。

参加者の紹介

今回は生徒会役員共の桜才学園の生徒会とS K E T D A N C Eの
開盟学園の生徒会が対決。
各高校の生徒会同士が対決する。

参加するアニメキャラは、
生徒会役員共・桜才学院生徒会チームからは、生徒会長の天草シノ・
副会長の津田タカトシ・書記の七条アリア・会計の萩村スズ。
S K E T D A N C E・開盟学園生徒会チームからは、生徒会長の
安形惣司郎・副会長の椿佐助・会計の丹生美森・書記の浅雛菊乃・
庶務の榛葉道流。

果たしてどちらの生徒会が勝って、賞金獲得ステージに挑むのか・
・。

本番前・・・（前書き）

DEROに出演する前の生徒会役員共の生徒会とSKET DAN
CEの生徒会です。

本番前・・・

ある日、桜才学園高等部に1人の男性がやってきた。

来たのは日本テレビのスタッフだった。

そのスタッフが生徒会に用があると言い、生徒会の4人はスタッフを招きいれた。

シノ「これはこれは、日本テレビのスタッフさん、ようこそお待ちしました。」

生徒会長の天草シノはスタッフに挨拶をした。

タカトシ「でも日テレのスタッフがなぜこの桜才高校に・・・。」

副会長の津田タカトシがそう言うとスタッフは・・・、

スタッフ「あなた方生徒会が来週の脱出ゲームDERO!に出演することになりました。」

タカトシ「ええ~~~~っ!?!?」

タカトシがびつくりする。

そしてシノが、

シノ「実は数週間前、アニメ限定でDEROの出場者募集の情報がここに入ってた、私が応募したのだ。まさかうちの学校の生徒会が本当に出演することになるとはな……。」

タカトシ「あれって確か、棒の上に立ったり、石像に追いかけられたり、水の中に入れられたりとか、閉じ込められた部屋の中でクイズに挑戦する番組だったはず……!」

書記の七草アリアは、

アリア「まあそれはなんかわくわくしそうですね。」

会計の萩村スズは、

スズ「このIQ180の私ならどんな問題でも解いてみてやる!」

2人は出る気まんまんのようだ。

タカトシ「まあ出るのはいいとして、なんで日テレのスタッフさんがわざわざここに来たのかを教えていただきたいのですが……。」

スタッフ「あなた方には、対戦相手を指名できる権利を与えます。もちろんアニメ限定です。」

スタッフがそう言った。

タカトシ「対戦相手を指名……。」

これを聞いてタカトシは口が急に止まる。

スタッフ「さあ何のアニメと対決します？」

シノ「対戦相手か・・・、実は前から顔を合わせたかったしたいアニメがいましたね。それは、S K E T D A N C Eの生徒会の者たちです。」

シノは対戦相手に開盟学園の生徒会を指名した。

スタッフ「あの、それでいいんですか？スケット団の方じゃなくていいんですか？」

スタッフが言った。

シノ「生徒会の相手は別の学校の生徒会の方がいいでしょう。この対決でしたら、どちらの学校の生徒会が強いのがアピールできます。」

スタッフ「わかりました。では後日その事を開盟学園の生徒会に知らせます。但し、相手方がOKと言わないと出演の承諾はできません。もしOKと言わなければ、こちら側が対戦するアニメを指名します。今でしたら第2希望・第3希望も声を聞かせてもらいますが・・・。」

シノ「開盟学園の生徒会1本で行きます。ダメなら他のアニメでもかまいません。」

スタッフ「わかりました。では私はこの辺で・・・。」

スタッフは帰って行った。

タカトシ「会長、いいんですかあの学校で……。なんかあの生徒会硬そうな気がしますし。」

シノ「大丈夫だ津田。あの学校の生徒会長なら承諾してくれる。」

次の日……。開盟学園の生徒会に1通の手紙が届いた。

菊乃「会長、日本テレビの関係者から手紙が届いています。」

生徒会書記の浅雛菊乃が生徒会長の安形惣司郎に手紙を渡す。

安形「何々……。『対戦相手が、あなた方開盟学園生徒会と今度の1週間後の脱出ゲームDERO!で対決したいのというアニメがいるということ、番組出演の推薦させていただきました。出演のオファーがOKでしたら、本番4日前までに日本テレビに連絡をしてください。それまでに連絡がなければ拒否してとさせていただきます。日本テレビ社員 × 男』だってか、おもしろそうじゃないか。」

これを聞いて、副会長の椿佐助は、

椿「ばかばかしいです！なんで僕ら生徒会があんな番組に出演しないといけないのですか！僕は断然拒否です！」

すると安形は……。、

安形「何々……。対戦相手『スケット団』……。？」

これを聞いて椿はピクツとする。

椿「スケツト団だと・・・？」

安形「こないだ確かスケツト団は、べるぜバブと組んでDEROに挑戦したんだよ。なかなかの好成績だったって言うぞ。きっと自分たちの強さをアピールするために俺達生徒会に挑戦してきたんじゃないのかな？」

これを聞いて椿は闘志を燃やす。

椿「きつとこないだのビバゲーの屈辱をこのDEROでリベンジしようとするものだな！わかったぞ藤崎！

これは生徒会に対する挑戦状だな！生徒会の強さを番組に見せびらかしてやる！」

榛葉「じゃ、出演OKということで。」

庶務の榛葉道流も出演に賛同する。

美森「じゃあ今すぐ参加の手続きを・・・。」

会計の丹生美森も賛同した。

菊乃「手続きは私がやります。」

浅雛が手出演続きをすると言った。

美森「ちなみにDEROの番組、丹生グループもスポンサーに入ってますわ。」

安形「へえ、そうなんだ。じゃあミモリン、今あそこで丹生グループの娘とアピールできるじゃないか。」

美森「まあそれはほどにやります。」

そして椿は、

椿「藤崎め、君らスケツト団から生徒会への挑戦を身の程しらずと教えてやる・・・!!」

そういうと椿は生徒会室から出て行った。

浅灘は安形が置いた手紙を見た。

菊乃「会長、対戦相手は『生徒会役員共の桜才学園生徒会』書かれています・・・。」

これに対して安形は、

安形「椿の奴、スケツト団以外の対決に興味絶対持たなそうじゃないか。だからあえてスケツト団が対戦相手だと嘘をついたのさ。きつと本番当日、対戦相手見てみたら仰天するだろうね。」

菊乃「そうですか・・・。」

安形「それよりデージー、早く日テレに電話して出演承諾の連絡をしてくれないかな？」

菊乃「わかりました。早速電話をかけます。」

浅雛は電話を取る。

そして丹生は、

美森「桜才学園ですか・・・、だったらVIPな待遇をさせませんとね。」

何やら思いついたようだ。

そしてDERO本番当日、桜才学園の生徒会は・・・、

シノ「今日がついにDERO本番だな。」

タカトシ「そうですね。」

アリア「楽しみですね。」

スズ「私は子供じゃないことを見せてやる!」

4人は桜才の校庭に集まっていた。

タカトシ「でもなんで一旦この校庭に集まれと・・・。」

シノ「日テレのスタッフがな、ここに集まれといわれたのだ。」

そして数分後何やら音が・・・、

ブロoooooooooooo、

空からヘリコプター2台が現れた！

スズ「何あれ！？ヘリ！？」

そしてヘリコプターが校庭に下りてくる。

そしてヘリコプターから人が出てくる。

男「生徒会役員共の皆さん、これからDEROのスタジオのある生田スタジオまでこのヘリで連れて行きます。」

男がそう言った。

タカトシ「へ、ヘリでDEROのスタジオに！？」

タカトシは仰天する。

シノ「結構待遇のいいテレビ局だな。」

アリア「とにかく乗りましょう。」

スズ「そうだ、早く乗ろう！」

4人はヘリの乗る。

1機はタカトシとスズ、もう1機はアリアとスズが乗った。

そしてヘリは空を飛ぶ。

タカトシ「しかし、俺達一般人がへりに乗せてスタジオまで連れていくなんて、日テレってそんなにお金あるのかな？」

タカトシはそれに疑問を感じていた。

そしてへりは生田スタジオに着く。

4人はへりに降りる。

シノ「さあDEROのスタジオに向かうぞ。」

桜才学園生徒会4人はDEROのスタジオへ向かう。

続く

本番前・・・（後書き）

次は紹介と管理人との会話です。

紹介・管理人との会話

DEROのスタジオに集まった生徒会役員共の桜才学園の生徒会と
SKET DANCEの開盟学園の生徒会の面々。

まず生徒会長同士があいさつする。

シノ「私が桜才学園高等部生徒会長の天草シノだ。」

安形「俺は開盟学園生徒会長の安形惣司郎だ。このDEROでいい
戦いをしよう。」

シノ「こちらこそ。」

生徒会長同士のあいさつが終わる。

しかし椿はなぜが不機嫌な表情だ。

椿「会長！これはどういうことですか！相手はスケット団と聞いて
たのに、全く違うじゃないですか！話が違います！」

安形「どうせ椿はスケット団じゃないと目も向けそうにないから、
あえてスケット団が対戦相手と俺は嘘を言ったんだよ。」

安形は軽く言った。

椿「ばかばかしいです！僕は帰ります！」

椿がスタジオから出ようとすると、

スズ「あんたそんな事で帰る気なの！相手が違っただけでゲームに挑戦せずに帰るなんて、小さい人間ね！」

スズがそう言っていると椿は、

椿「な、なんだこの娘こは？」

椿が驚愕した顔で言った。

タカトシ「彼女は会計の萩村スズって言うんです。子供に見えるけど、れっきとした高校生です。」

タカトシが言っているとスズは、

ガンツ！

タカトシ「いたっ！」

タカトシの足を蹴った。

スズ「子供って言うな！」

そしてシノが言った。

シノ「彼が副会長の津田タカトシで、こっちが書記の七条アリアだ。」

アリア「よろしくお願いします。」

アリアが挨拶する。

安形「こいつが副会長の椿佐助であっちが庶務の榛葉道流、そしておっとりとしたのが会計のミモリンこと丹生美森、キリッとしたのが書記のデージーこと浅雛菊乃だ。」

榛葉「よろしく。」

美森「よろしくお願いします。」

アリア「あれっ丹生という苗字ということは、あの丹生グループの令嬢さん？」

美森「そうです。」

タカトシ「七条先輩、あの人（美森）知っているんですか？」

アリア「あの大企業の丹生グループです。年商は京単位で・・・。」

タカトシ「え〜〜！それって七条先輩の実家の企業よりはるかに上じゃないですか！」

タカトシは丹生企業の大きさに驚くばかり。

美森「ちなみにヘリの調達をしたのも私ですわ。」

タカトシ（丹生グループ、恐るべし・・・！）

そして管理人が現れる。

管理人「ようこそ、桜才学園と開盟学園の生徒会の皆さん！今回は生徒会对決ということで、どっちがすごい生徒会かをアピールさせていただきますよ！」

安形「やつと来たね。」

椿「全くなんで僕がこんな番組に参加するのですか。」

管理人「椿、何か文句あるか？」

椿「ありますよ！相手がスケット団じゃないのにこんな番組に出るなんて納得いかない！」

椿があれこれ言うとな形は、

安形「椿、シノはとても規律の厳しい生徒会長だよ。君も他生徒に学園の規律を厳しく指導してるだろう。規律の厳しい者同士が戦うんだから、ここで逃げると副会長の面目が立たないぞ。」

安形がそう言うとな形は、

椿「わかりました。生徒会の面目をかけて戦いましょう。」

椿はようやく戦うことを承諾した。

シノ「これでやつと安心して戦えるな。」

管理人「よかったよかった。ところでデージー、君何にしゃべってみたいけど。」

菊乃「管理人さん……。」

管理人「何？」

菊乃「DOS（ドブで溺れて死ぬ。）」

菊乃のこの言葉に管理人は、

管理人（なんかこいつ、むかつくなあ）

こう思っていた。

男ナレ「ルールはこちら！各チーム2つのステージの挑戦し、ポイントの獲得数が多かったチームが賞金獲得への第3ステージに挑戦する！」

1stステージ、まずは桜才学園生徒会チームの挑戦。

桜才学園生徒会チームの挑戦 石像の間 前編

桜才学園生徒会チームが挑むステージは石像の間。

挑戦するのは、天草シノ・津田タカトシ・七条アリアの3人。長く細い部屋の奥には不気味な石像が待ち構えている。

3人は足かせをはめられ、動きを制限される。

果たして3人は無事に脱出することができるか！？

そして脱出口がロックされる。

ガチャン

3人は目隠しを外す。

タカトシ「あれっ、足に何かはめられてるじゃないか！」

タカトシは後ろを見た。

タカトシ「あれは・・・、石像！」

シノ「静かにしろ、津田。」

うろたえるタカトシに冷静なシノ。

アリア「なんかドキドキするわね。」

アリアは緊張感がないようだ。

そしてモニターに管理人が現れる。

管理人「ようこそ、石像の間へ！いやー女子2人にかこまれている
タカトシがうらやましいな！」

タカトシ「いや、そんなことは別に・・・。」

管理人「あらあらそうですかー。シノちゃんとアリアちゃん、脱出
できる自身ありますか？」

シノ「当然だ。脱出できないと生徒会の面目がない。」

アリア「でも私、石像に食べられたらどんな感じがするのか経験し
てみたいわ。」

アリアの言葉に管理人は、

管理人「石像に食べられたらどんな感じがするって・・・、君変わ
ってるな。」

アリア「でもシノちゃんも変わっている所あるわよ。」

男ナレ「この部屋から脱出するためには、迫りくる石像に捕まる前
に、3つの扉の謎を解き、全ての扉を開けて石像停止ボタンを押さ
なければならぬ。ちなみに石像の鼻を押すと、押した人が犠牲に
なる代わりに他の人が生き延びるための時間を稼ぐことができる。」

石像は鼻を押すと3m後退する。残り80cmになると黄色い線の
DANGERゾーンに入り警告音が流れる。赤い線のDEADゾー
ンに石像が来てしまうと脱出失敗となる。

管理人「それではがんばってくださいねー。バイバイと。」

モニターから管理人が消える。

女ナレ「それでは、うつぶせに寝てください。」

3人はうつぶせに寝る。

シノ「もうすぐ始まるな。」

ウーンウーンウーンウーン

タカトシ「始まった!」

アリア「わくわくするわね。」

女ナレ「移動まで、3、2、1、0。」

ドゴーーーーーン!!

タカトシ「わあーーーーっ!!」

3人は石像の所までに引っ張られる。

タカトシは石像を見て、

タカトシ「うわあ、石像の所まで来たら本当に怖い!」

そして3つの扉が閉まる。

シノ「扉が閉まっていったぞ。」

タカトシ「ええーっ!？」

そして石像の目が光り・・・、

プシューーッ!!

石像の鼻から炭ガスが発射した。

脱出開始

石像が動き出す。

タカトシ「わわわ、来ますよ!」

シノ「早く行くぞ!」

3人は第1の扉に向かう。

アリア「どんな問題かしら。」

ここからはシノ シ、タカトシ タ、アリア アと省略します。

女ナレ「第1の扉、さかさ言葉クイズです。

片方から読むと海の生き物。逆から読むと価値が変わること、
になる3文字の言葉を並べなさい。

らいやくるげすか

タ「逆から読むと価値が変わること……?」

3人は考える。

タ「やすか……、安い価格の安価……。」

シノ「違うな、かすやという生き物はいない?」

タ「じゃあ……何でしょう?」

2人が考えている中、アリアが、

ア「げ・ら・く……、下落じゃないの?逆から読めばくらげになるわ。」

シ「それだ!」

3人はブロックを取り、

くらげ

シ「行けっ!」

シノはボタンを押す。

ピンポーン

正解　くらげ

くらげ 下落

第1の扉が開く。

シ「アリア、ナイスだな。」

ア「いやそれほどでも。」

タ「早く行かないと来ますよ!」

3人は第2の扉へ向かう。

そして着く。

女ナレ「第2の扉、穴埋めクロススイズです。

上下左右、4つの言葉ができるように四角を埋めなさい。」

ち

お すみ

し

やむおらくかわも

ア「何でしょうね……。」

シ「おや……、大家、おやすみ……ちおや……違うな。」

タ「俺全然わかりません!」

シ「絶対答えがどこにある。よく考えるんだ。」

タ「くわ……、あつ『お』と『すみ』には入らない!」

苦戦する3人。迫りくる石像……、

ア「ちかく……、おかく……、かくすみ……、かくし……。
」

シ「『おか』も違うな。」

タ「『すみ』って何が入るんだ……?」

と、ここで石像がデンジャーゾーンに突入!

シ「会長、もう石像が来ましたよ!」

男ナレ「石像がデンジャーゾーンに突入!赤いゾーンのデッドゾーンに入ると全員まとめて食べられてしまう!果たして誰が犠牲となる!?」

タ「誰が犠牲になるんですか!?」

シ「私は嫌だぞ!」

ア「じゃあ私が行きます!」

アリアは石像のところに行き、鼻を押した。

ピコーン！

身代わり 七条アリア

プシューーーーーッ！！

ブオーーーーーン

アリアが引きずりこまれようとする。

タ「七条先輩」。

ア「津田くん、シノちゃん、石像に食べられるとどんな感じがするか、私そこでドキドキするわ・・・。」

タ「でもここで七条先輩いなくなることになりましたよ！」

ア「大丈夫よ。あとは会長副会長同士でまかせてね。」

シ「あとは私と津田でまさせる、アリア！」
そして・・・、

ドゴーーーーン！

アリアが石像に食べられてしまった。

プシューーーーーッ！！

女ナレ「アリアさん、脱出失敗です。」

スズ「ああ七条先輩」。

がっかりするスズ。しかし椿は・・・、

椿「なんだあの人は。食べられたらどんな感じがするって・・・。」

アリアの言葉に困惑する椿。

――――

男ナレ「七条アリア、石像に食べられたらどんな感じがするといい残し、潔く石像に飲み込まれる！脱出失敗！」

アリアの犠牲により、石像が3mまで後退。

タ「会長、早く解きましょう！」

タカトシはシノに言う。

シ「ん？から・・・？おから、ちから、からすみ、からし、『からだ！』」

タ「あっそうです！」

シノは『か』と『ら』のブロックを取り、置く。

カチッ

ピンポン

正解

ち力

おから

おからすみ

からすみ

からし

第2の扉が開く。

タ「七条先輩のためにも脱出しましょう、会長！」

シ「わかってる！」

2人は第3の扉に向かう。

続く

石像の間 後編

石像の間に挑戦中の桜才学園生徒会チームのシノ・タカトシ・アリア。

しかしアリアの身代わりにより、残り2人となった。
果たして2人は脱出できるか……。

シ「次の扉で最後だ。」

2人は第3の扉に着く。

女ナレ「第3の扉を開けるには、人物名前並べ替えクイズに3問正解しなくてはなりません。」

タ「3問か、厳しいな……。」

女ナレ「第1問、全ての文字を使い、声優の名前になるように並べなさい。」

つたあけなたや

タ「えーっと、やたけ……いないか。」

シ「『た』が2つあるな。」

タ「あやたけ……。」

シ「たけた……、あつ竹達彩奈だ。」

たけたつあやな

シ「よし！」

シノはボタンを押す。

カチッ

ピンポーン

正解 竹達彩奈

タ「あと2問……。」

女ナレ「第2問、全ての文字を使い、声優の名前になるように並べなさい。」

もぶおことひかの

シ「これも声優の名前か……。」

2人は懸命に考える。

シ「ことぶき……、『き』がないな。」

タ「のぶお……、名前はこれの方かな？」

色々とブロックを動かす2人。

シ「狩野^{かのう}という名字もあるが、これでは名前が結びつかないな。」

苦戦する2人。

石像はどんどん迫ってくる。

タ「えっと、お・・・かも・・・、名字岡本じゃないんですか!？」

シ「それありえるな。」

まず『おかもと』と並べる。

タ「それからのぶ、のぶこ・・・のぶひこですよ!」

シ「あつその声優は確かにいる!」

タカトシは『のぶひこ』と並べる。

そしてボタンを押す。

カチッ

ピンポーン

正解 岡本信彦

タ「あと1問ですね、会長!」

女ナレ「第3問、全ての文字を使い、6文字のアニメキャラと3文字の楽器の名前になるように並べなさい。」

たわひゅーぎいさら

タ「3文字の楽器？」

タカトシがうなずく。

とここで石像がデンジャーゾーンに再び突入！

タ「わっまた来た！どうするんですか！」

タカトシがそう言うとシノは、

シ「津田、お前が行け！」

タ「え、ええ！！」

うろたえるタカトシ。

シ「これは会長命令だ！」

タ「は、はい・・・。」

タカトシは仕方なく石像の所へ行き、鼻を押しに行く。

カチッ

ピコーン！

身代わり 津田タカトシ

プシューーーーーッ!!

石像が後退し、タカトシは引きずりこまれようとする。

タ「会長、本当にがんばってくださいよ。」

シ「ああ、それから石像に食べられればアリアがいるぞ。石像の中のアリアと一緒に私が脱出できるように祈るんだ。」

タ「いや、祈る暇なんて・・・、あーっ!!」

ドゴーーン!!

タカトシは石像に飲み込まれてしまった。

プシューーーーーッ!!

女ナレ「タカトシさん、脱出失敗です。」

男ナレ「会長命令であえなく身代わりになった津田タカトシ、脱出失敗!」

タカトシの犠牲により、石像が3m後退する。

シ「この伸ばし棒があるということは・・・、楽器はギターだな。」

シノはギターと並べる。

シ「となると名前は・・・、ゆい、ん?ギターでゆいといったら、

名字は平沢、平沢唯だ！」

シノはブロックを並べ。

ひらさわゆい　ぎたー

そしてシノはボタンを押す。

カチッ！

正解　平沢唯　ギター（けいおん！）

そして第3の扉が開く。

シ「これが停止ボタンだな。」

シノは石像停止ボタンを押す。

カチッ！！

パオーーーーー

石像が止まる。

女ナレ「ステージクリアです。」

脱出成功

シ「津田、アリア、会長の面目かけて脱出したぞ。」

そして石像が後退していく。

女ナレ「脱出成功、おめでとうございます。」

足かせの鍵が出て、シノは鍵を開ける。

そして脱出口から出る。

男ナレ「生徒会長・天草シノがなんとか1人だけ脱出成功し、桜才学園生徒会チーム、1ポイント獲得！」

3人はサポートルームに戻る。

なぜか不機嫌なスズ。

スズ「ちよつと！1人脱出しただけって、あのメンバーだったら最低2人脱出できたはずよね！津田、副会長なんだからしっかりしろよ！」

タカトシ「じゃあ萩村、あの部屋で出た問題出来たのか？」

スズ「もちろんよ！第1、第2の扉の問題、すぐ出来たわよ！」

アリア「でも石像に食べられる経験できてよかったわ。」

シノ「どんな感じだったのだ？」

アリア「それは・・・、」

ネタばれ防止の為、カット。

椿「しかしあの高校の生徒会、本当に規律厳しいのでしょうか？あんな行動見てとても規律が良いとは言いがたいのですが・・・。」

安形「椿、あの連中はああやってることもあるが、ちゃんと学校の風紀を守ってる。シノという会長はちゃんとしっかり高速違反を厳しく取り締まっていると聞いてるぞ。」

椿「そうですね・・・。」

榛葉「なんかほほえましい生徒会だね。あの学校のは。」

美森「アリアちゃん、結構かわいかったですわ。」

次は開盟学園生徒会チームの挑戦。

開盟学園生徒会チームの挑戦 爆弾の間 前編

開盟学園生徒会チームが挑むのは爆弾の間。

挑戦するのは、安形惣司郎・椿佐助・浅雛菊乃の3人。

3人は爆弾が仕掛けられた別々の部屋のダクトに入れられる。そして脱出口がロックされる。

ガチャン

チームワークが重要な爆弾の間で、この自由すぎる生徒会長と硬そうないメージの2人で脱出できるか!?

3人は目隠しをはずす。

椿「なんか狭いですね……。」

安形「ここは確か爆弾の間……、色々おもしろいことになりそうだな。」

3人の部屋にはそれぞれ小型爆弾があり、その中央には大型爆弾がある。

ダクトの中には、爆弾解除に必要なニッパーと仲間と会話ができるようになる通信機がある。

3人は通信機をつける。

安形「生徒会長の安形だ。」

椿「副会長の椿です。」

菊乃「書記の浅雛菊乃です。」

3人は聞こえているようだ。

そして管理人が現れる。

管理人「ようこそ、爆弾の間へ！ 椿、どうこの居心地は？」

椿「狭いですよ！ 何なんですか、ここは！」

管理人「君達はこの部屋で脱出するためのゲームをしてもらいます。まあ椿、ふがいない結果で、この回を見るかもしれないスケット団たちに笑われないようにね。」

これを聞いて椿は、

椿「スケット団……！ 絶対脱出します！」

安形「椿、やけに気合入ってるみたいだな。」

管理人「安形、部屋ではやる気なさそうに見えたけど、あなたチームまとめられます？」

安形「まあそれなりにまとめるようにするよ。」

管理人「ははそうですか。ところでデージー、君意見が分かれたらどうする？」

菊乃「会長の言うことを信用します。」

管理人「やはりそうですか。」

男ナレ「この部屋から脱出するためには、爆弾についている3つの起爆装置を解除しなければならぬ。正解と同じコードの色を切れば解除成功。但し間違ったコードを切るとその部屋の小型爆弾だけが爆発し、仲間が1人ずつ減っていく。全滅した時点で脱出失敗となる。」

管理人「それでは皆さん、がんばってくださいね。」

モニターから管理人が消える。

ウィーンウィーンウィーンウィーン

脱出開始

安形「どうやら始まったようだね。」

そしてモニターに08:00:00と表示される。

ピーーーーー

ピッ
ピッ

椿「会長、タイマーが動き出しましたよ!」

安形「それはわかってる。」

女ナレ「爆破タイマーが作動しました。」

そして1つ目の筒状の起爆装置が出てくる。

椿「これOPENって書いているということはこれを開けることですよね!？」

3人は起爆装置の蓋を回し開ける。

するとコードが出てきた。

安形は赤、椿は青、菊乃は黄色。

椿「どんな問題が出されるんですかね・・・？」

ここからは、安形 安、菊乃 菊と省略します。

女ナレ「LEVEL1の問題です。」

次のうち、最も多く既刊されているライトノベルを1つ切りなさい。

└

赤・ゼロの使い魔

青・灼眼のシャナ

黄色・とある魔術の禁書目録

インデックス

椿「な、なんですか、この問題・・・。」

予想以上の難しさに椿は困惑する。

菊「会長、この中だとどれだと思います？」

安「俺の考えだと多分ゼロの使い魔は違うと思うな。」

椿「なぜですか？」

安「ゼロの使い魔は多いと思うけど、シャナほどではないかと考えるな。」

菊「そうですか。」

椿「それからインデックスって、アニメになったの最近じゃないんですか？」

安「そう言われると、確かにインデックスはこの中だったら新しいな。」

菊「でもまだそんなに既刊されていなくてもアニメ化されるものだってあるじゃないですか？漫画だってそうですし。」

椿「そう言われればそうですね。」

色々と迷いが出る。

安「でもなライトノベルは漫画と違って、発行される時期が色々バラバラな所が多いじゃないか？同じ時期に初めて発表した2つのライトノベルだって同じ既刊数になるとは限らない。」

椿「あつ、そう言われると、いくら人気作家でも次の作品発表するまで1年以上かかったという人もいます。」

菊「そのこれらのライトノベルの作家さんが、次の巻書くまでにどのくらいかかるということが大事なポイントね。」

時間は6分10秒になっている。

椿「会長、残り6分になりますよ！早く決めないと！」

安「そうだな、んー俺の予想だったらシャナが発刊されているんじゃないかと思うな。」

椿「えーっ？理由は何ですか？」

安「俺書店でちらつと見たけど、結構あつた気がするんだ。」

椿「そ、それだけで？」

安「そういうことだ。」

椿「シャナは青ですよ。僕が青です。」

安「椿が青だったな。椿は何か意見はないか？」

椿「いや、僕もわかりませんが。でも予想ではインデックスも多そう気がするんです。会長はどうなんですか！？」

安「それはあまり目にしてないからわからない。」

椿は顔を下に向ける。

椿「浅雛はどうなんだ？」

菊「会長が言うのだったら、それでいいんじゃない？」

椿「本当に浅雛は会長の言うことを鵜呑みにするものだな。」

時間が刻々と迫る中、椿は、

椿「わかりました。じゃあ青のコード切りますよ。」

安「じゃあシャナで決まりな。」

椿「じゃあ青切りますよ！」

時間が残り5分になる所で、椿は青のコードを切ろうとする。

チヨキン

切った。

男ナレ「椿、頼りない安形の言葉を聞き、青をカット。間違えれば自分だけ爆破、果たして!？」

ドッカーン！！

爆発した。

安「あれ？間違えたみたいだな？」

平謝りな顔をする安形。

椿のへの通信が途切れる。

女ナレ「椿さん。脱出失敗です。」

男ナレ「頼りない会長の言うことを信じ、自分のコードを切つてあえなく爆破！副会長・椿佐助、脱出失敗！」

ちなみに灼眼のシャナは25巻まで既刊されている。

菊「椿君、いなくなりましたよ。どうします？」

安「じゃあインデックスだな。」

菊「じゃあ会長の言うことを信じ、それ行きます。」

サポートルーム

タカトシ「ちょっと、それだけで切るって・・・!」

シノ「まあ自分のチームだからそんなこと関係ないだろう。何切ろうがあっちの自由だろう。」

安「いいのかい?それで。」

菊「もしダメでも、後は会長ががんばってください。」

安「じゃあデージー、切ってくれ。」

菊「じゃあ切ります。」

菊乃は黄色のコードを切ろうとする。

チヨキン

切った。

男ナレ「なんと浅灘、安形のたった一言だけで自分のコードを切った!果たして大丈夫なのか!?」

ピンポーン

正解

安「あつ、合ってたな。」

菊「よかったですね。」

女ナレ「1つ目の起爆装置、解除成功です。」

解説

ゼロの使い魔 20巻

灼眼のシャナ 25巻

とある魔術の禁書目録 27巻（短編含む）

サポートルーム

榛葉「あつ正解だったね。」

美森「でも椿君、残念でしたわね。」

女ナレ「次の起爆装置を解除してください。」

2人は1つ目の起爆装置の蓋を閉める。

果たして次の問題はどんな問題が出るのか・・・？

続く

爆弾の間 後編

爆弾の間に挑戦中の開盟学園生徒会チーム。

1 問目で椿が脱出失敗となり、残るは安形と菊乃となった。
果たして脱出できるか・・・。

2 つ目の筒状の起爆装置が出てくる。

2 人は蓋を開ける。

コードの色は先ほどと同じ安形が赤、椿が黄色。

女ナレ「LEVEL 2 の問題です。次のうち、CD のメジャーデビ
ューしたのが早い方を切りなさい。」

赤・中川翔子 黄色・May'n

女ナレ「ちなみにMay'nさんは以前、本名の「中林芽衣」で歌
手活動していました。（改名は2008年。）」

残り4分になろうとしている。

菊「会長、どつちだと思います?」

安「これは難しいね。ポイントはMay'nちゃんが以前本名で活
動していたという所だね。」

菊「マクロスFって何年くらいに始まりましたっけ?」

安「2008年だったはずだ。改名と同じ年にシェリルの歌唱パートをしたってことだね。」

菊「ところで中川翔子さんの方ですけどCDデビューした年覚えています?」

安「確か2006年だったはずだね。でも何月にデビューしたかはわからないな。」

菊「そのMay-nさんが2006年以前にデビューしていたのが力ギですね。」

安「確かMay-nちゃんは中学生の頃にホリプロのオーディションを受けていたことは知っている。その後何年たって歌手デビューしたかだな。」

菊「それはわかってます。オーディションから何年経てデビューしたのかを。それからMay-nさんは翔子さんより年下ですよね?」

安「そうだな。でも歌手デビューする時の年齢は人によってまちまちだからな。」

菊「そうですね。30歳で歌手デビューする人もいますし。」

安「ところでデージーはどっちだと思う?」

菊「私はMay-nさんの方だと思います。」

安「そうか・・・でも俺は僅差でしょこたんの方だと思うな。たぶん1ヶ月くらい早くデビューしたんじゃないかと思う。」

菊「じゃあそれ会長、行きます?」

安「これで行ってみるか。」

残り2分30秒となろうとしている。

安「じゃあ俺、赤切るぞ。」

安形が赤のコードを切ろうとする。

チョキン

切った。

男ナレ「安形、己^{おのれ}の勘で赤をカット!果たして!?!」

ドッカーン!

爆発した。

菊「あ、会長……。」

安形への通信が途切れる。

女ナレ「安形さん、脱出失敗です。」

男ナレ「生徒会長・安形、自分の直感を信じるが結果は爆破！脱出失敗！」

女ナレ「じゃあ私のコードを切れば……。」

菊乃は黄色のコードを切ろうとする。

チヨキン

ピンポーン

正解

菊「May、nさんだったようですね。」

解説

中川翔子 2006年7月5日
May、n 2005年6月1日

女ナレ「2つ目の起爆装置、解除成功です。次の起爆装置を解除してください。」

菊「後は私だけで解除ということになる・・・。」

男ナレ「残りは浅灘1人のみとなっちゃった！ここからは1人で問題を解かなければならない！」

菊乃は2つ目の起爆装置の蓋を閉め、3つ目の起爆装置の蓋を開ける。

菊「あれ、2本入ってる。」

中には黄色と緑のコードが入っていた。」

男ナレ「そうここからは2択の問題を1人で解かなければならない！」

女ナレ「LEVEL3の問題です。次のうち、『魔法先生ネギま！』の3年A組の生徒で最も多い方を切りなさい。」

黄色・身長150cm未満 緑・身長165cm以上

女ナレ「ちなみに150cm以上165cm未満の生徒は16人い

ます。」

残り2分になる。

菊「この中で多い方を切るというもの・・・、ネギまに出てくる生徒は身長差が激しいことはわかってる。果たしてどっちが多いか。」

菊乃は1人で考える。

菊「まず150cm未満を考えましょう。双子の鳴滝姉妹は1番身長が低い、ということは145未満2人。次に綾瀬夕映さんもかなり低かった、エヴァンジェリンさんも含まれていたはず・・・。」

サポートルーム

タカトシ「あの浅雛さん、冷静に考えていますね。」

シノ「彼女は本当に冷静だな。」

榛葉「デージーは常に冷静だからね。」

美森「デージーちゃん、がんばって。」

懸命に考えている菊乃。

菊「佐々木まき絵さんは150未満だったかしら・・・？わからない

い。ここまで出ているのは7人・・・、次は165cm以上・・・。
龍宮さんと楓さんは確か180以上・・・。」

女ナレ「爆破まで残り1分です。」

菊「あと1分・・・、いや問題に集中することにする。時間いつばいまで。次に委員長も170あつたはず・・・、あつ茶々丸さんもそうだったわ。明日菜さんは165いかなかったかな？なんか運動部のメンバーに結構な長身もいたはずね。次に朝倉さんは確か160後半だった・・・。あと柿崎美沙さんって165いつていたかしら？」

女ナレ「爆破まで残り30秒です。」

菊「ここまでの計算によれば145cm未満7人、165cm以上7人、ここまで同じ人数・・・。問題は柿崎さんの身長・・・。もしかしたら多分柿崎さん165いつているかもしれない。」

女ナレ「爆破まで残り15秒です。」

菊「じゃあ緑で行くことにする。間違っていたら会長、椿くん・・・、すいません。」

菊乃は緑のコードを切ろうとする。

チヨキン

緑を切った。

男ナレ「浅難、1人で懸命に考え、最後の選択に選んだのは緑！脱出か！？爆破か！？果たして！？」

ピーーーーッ

正解

女ナレ「3つ目の爆弾、解除成功です。」

脱出成功

菊「やりました会長、椿くん……。」

解説	150cm未満	7人
	165cm以上	8人

サポートルーム

美森「よかったですわ。」

榛葉「これで同点だね。」

女ナレ「脱出成功、おめでとうございます。」

脱出口の扉が開く。

菊乃は部屋から出る。

男ナレ「書記・浅雛菊乃、最後は懸命に考えて答えを導き、見事脱出成功！開盟学園生徒会チーム、1ポイント獲得！」

3人はサポートルームに戻る。

シノ「デージーの脱出劇はすごかったな。」

菊乃「いえ、チームの為にやっただけのことです。」

アリア「でも副会長の椿君、あっさり終わっていましたね。」

アリアの一言に椿は、

椿「あ、あれは仕方ないことですよ！自分もわからなかったから会長の言うように切っただけです！」

安形「これには俺もすまないと思ったな。ははは。」

安形は笑う。

椿「会長も笑わないでください！」

椿は笑う安形に怒る。

安形「まあこれで同点だな。次で決着をつけよう。」

シノ「ああ、次で勝負が決まることになるな。」

両チームとも同点のまま2ndステージに向かう。

果たして勝つのはどっちか・・・。

棒の間 その1

現在、両チームとも1ポイントという接戦。
2ndステージは棒の間。棒の間は対抗戦。
各チーム3人が挑戦。

桜才学園生徒会チームからは、天草シノ・津田タカトシ・萩村スズ。
開盟学園生徒会チームからは、安形惣司郎・丹生美生・榛葉道流。

目隠しをされた6人は部屋の中に入れられる。

そして脱出口が閉ざされる。

ガチャン

6人は目隠しを外す。

タカトシ「あつ、ここは棒の間……。」

榛葉はトイレのスッポンを見て、

榛葉「これは持つとかなきゃね。」

そして……、

ブーンブーンブーンブーン

脱出開始

安形「どうやら始まったようだな。」

そして4本の棒が現れる。

スズ「これに乗るのね！」

安形「俺は1人で乗る。ミモリンは道流と乗ってくれ。」

美森「はい、わかりました。」

そして床がどんどんなくなっていく。

シノ「津田、早く乗れ！」

タカトシ「は、はい！」

そして6人は棒の上に乗る。

棒の配分は、

桜才学園チーム 左側 前・タカトシ 後・シノ 右側 スズ

開盟学園チーム 左側 安形 右側 前・榛葉 後・美森

そしてモニターから管理人が現れる。

管理人「ようこそ、棒の間へ！あれ、シノちゃん、なんか怖がつて
いるけど？」

確かにタカトシの後ろのシノは怖がつてる顔をしている。

シノ「こ、これは怖い……。私は高いところが苦手だ……。」

タカトシ「会長！しっかりしてください！」

タカトシはシノを心配する。

管理人「ところでミモリン、すごい金持ちなんだね。それからD E R Oが君の親のスポンサーになってくれて、スタッフもウハウハだよ。」

美森「今なら1億円出しますから、私たちを脱出させてくれませんか？」

管理人は照れた顔で、

管理人「いやあどうしようかな？」

スズ「ちょっと！なにお金で解決しようとしてるのよ！」

スズは美森の対応に怒っている。

榛葉「ふふふふ、楽しそうだね。」

榛葉はそれに笑っている。

管理人「それから安形、君には隠れた实力があるって……。」

安形「まあ、これで決着が決まるから、ここで本気出すとするか。」

男ナレ「この部屋から脱出できるのは1チームだけ。その1チームが決まるまで、問題がエンドレスに出題される。パスは1チーム1回のみ。脱出人数1人につき2ポイント。1人でも脱出できたチームが勝利となり、3rdステージ進出となる！」

果たして脱出できるのはどちらか・・・。

続く

棒の間 その2

棒の間がスタート。

尚、ここからはシノ シ、タカトシ タ、スズ ス、安形 安、榛
葉 榛、美森 美と省略します。

1 巡目

女ナレ「まずは、漢字であるものを表現した漢字イラストクイズで
す。」

最初は桜才学園チームから。

女ナレ「桜才学園生徒会チーム、タカトシさんへの問題です。この
漢字イラストは何を表しているのでしょうか？」

赤帽	赤帽	白帽	白帽
人人	人人	人人	人人
人人	人人	人人	人人
人人	人人	人人	人人
網網手持網網手持網網白網網手持網網手持網網			
人人	人人	人人	人人
人人	人人	人人	人人
足足	足足	線	足足

タ「えつと・・・。」

シ「ほ、ほらあれだ、津田。わかるぞ……。」

シノを高さにおびえながらもわかっているようだ。

ス「何やってるのよ！早く答えて！」

夕「赤帽に白帽、白線に綱……あつ綱引き！」

ピンポン

女ナレ「正解です。答えは綱引きでした。」

「シ、も、もっと早く答えられなかったのか？」

夕「急にはわかりませんよ！それよりも大丈夫ですか？」

シ「私は大丈夫だ……。早く次の問題に進め……。！」

女ナレ「タカトシさんとシノさんの命の棒、残り149cmです。スズさんへの問題です。何を表しているのでしょうか?」

玉

玉

目

玉

浮

浮玉

手手

鼻

浮玉

吹筒筒筒筒筒

4

玉 玉

手手

顎

浮
浮

玉

筒

筒

入筒入

物液体物
入液体入
物入物物

ス「しゃぼん玉！」

ピンポン

スズは早い段階で答える。

女ナレ「正解です。答えはしゃぼん玉でした。スズさんの命の棒、残り166cmです。」

ス「浮かぶ玉ですぐわかったわ。」

女ナレ「開盟学園生徒会チーム、安形さんへの問題です。何を表しているのでしょうか？」

安「やつと俺の出番か。」

叩 叩 手手

叩持持持持持持手

叩 手手

土 土

竜 土 竜 土 金

竜 竜 投入口

安「もぐら叩き。」

ピンポン

タ「あの人も早い……。」

女ナレ「正解です。答えはもぐら叩きです。」

安「土と竜と書いてもぐらと読む。」

タ（さすが開盟学園生徒会長安形さん……あれですぐわかるとは……。」

女ナレ「安形さんの命の棒、残り168cmです。続いて榛葉さんへの問題です。何を表しているのでしょうか?」

景 景 景

品 品 品

棚棚棚棚棚棚棚棚棚棚

景 景

品 品 弾

棚棚棚棚棚棚棚棚棚棚

鉄砲鉄砲鉄

引砲

景品

金鉄

砲

弾 弾

榛葉「射的。」

ピンポン

女ナレ「正解です。答えは射的でした。」

美「榛葉さん、いいですね。」

安「そうだな。道流も早く答えられたな。」

榛「まあ、鉄砲と景品ですぐわかったけどね。」

榛葉は髪をなでおろしながら言う。

女ナレ「榛葉さんと美森さんの命の棒、残り153cmです。」

サポートルーム

アリア「榛葉さんって何かっこいい……。」

アリアは榛葉にうつとりしているようだ。「

次は2巡目に入る。

果たして先に落ちるのは……。

続く

棒の間 その2（後書き）

やっぱりパソコンの文字入力だけで漢字イラスト作るの難しいです・
・・。

シャボン玉のイラスト、自分から見てもわかりずらく見えます。

棒の間 その3

棒の間は2巡目に入る。

2巡目

女ナレ「続いては『あいうえお』を暗号で表した、あいうえお暗号クイズです。シノさんへの問題です。この暗号は何を表しているのでしょうか？」

さしすせそ さしりりり

シ「これは何だ・・・？」

シノはえっ？としたような顔をする。

シ「すせそがり・・・？すせそり。」

ブーッ

シノはまだわからない。

ヒント・どの文字から『り』になっている？

シ「どの文字から・・・？『す』からということか？でもそれでもわからない。」

タ「会長！棒が縮んでいきますよ！」

シノはわからないままなので、棒は縮み続ける。

シ「パス！」

シノはパスをした。

女ナレ「ただいまの問題の正解は、『す』以下は『り』になっているので、スイカ割りでした。」

タ「これは難しいですよ。会長でも苦戦するのがわかります。」

シ「津田、スズ、パスを使って申し訳ない……。」

女ナレ「シノさんがパスを使いましたので、桜才学園生徒会チームはパスはもう使えません。タカトシさんとシノさんの命の棒、残り91cmです。」

男ナレ「ここでシノがパスを使ってしまった！スズは答えられないと奈落の底へ！」

女ナレ「スズさんへの問題です。この暗号は何を表しているのですよう？」

あああああいうえお
らりるれろろろろろ
あいうえええお

ス「あが6、らが7、えが4・・・、あむろな・・・、安室奈美恵！」

ピンポン

女ナレ「正解です。答えはあが6つ、ろは7つ、えが3つあるので、あ6（む）・ろ7（な）・3（み）え、安室奈美恵でした。」

ス「このくらいお手の物よ。」

女ナレ「スズさんの命の棒、残り150cmです。安形さんへの問題です。この暗号は何をあらわしているのでしょうか？」

亀

らりるれろ

安「亀が『れ』の上に載っているからカメレオンだ。」

ピンポン

女ナレ「正解です。答えは『亀』が『れ』の上に載っている、ONしているということで、カメレオンでした。」

タ「す、すごい・・・、萩村も早いが、安形さんも早い・・・！」

タカトシはスズと安形の驚異的な解答の早さに驚くばかり。

女ナレ「安形さんの命の棒、残り155cmです。美森さんへの問題です。この暗号は何を表しているのでしょうか？」

さしすせそ

い
も

たちつてと

美「えーっと……。」

考える美森。

美「いとも……さとの間に……あれ、全然わかりませんわ。」

榛「ミモリン、落ち着いて。」

ヒント・『い』と『も』が何と何の文字の間に入っていますか？

美「さつあいだいも……あれヒント出てもわからないですね。これはパスします。」

美森は真顔でパスした。

女ナレ「ただいまの問題の正解は、『さ』と『つ』が『い』と『も』の間に入っている、『さつ間』『いも』でさつまいもでした。」

美「あーっ。間あいだと言うんではなくて『間ま』と読めばよかったんですね。それはあまり考えていませんでした。」

パスを使ったが悪気はなさそうな顔をする。

榛「大丈夫、相手もパスを使ったからこの場合はお互い様だ。ここからが勝負所だよ。」

女ナレ「美森さんがパスを使いましたので、開盟学園生徒会チームはパスはもう使えません。榛葉さんと美森さんの命の棒、残り97cmです。」

男ナレ「ここで両チーム共、パスを使い切った！ここからは答えられないと奈落の底へ！」

3 巡目

女ナレ「続いては、抜けている3つの文字を入れて縦から読むとある言葉になる。3つの穴埋め言葉クイズです。タカトシさんへの問題です。3つの丸に文字を入れると何と言っ言葉になるでしょう？」

く い

しゃ

けい

タ「えーっと・・・、最初はくさい・・・、汽車、医者・・・、け

いじ、毛糸・・・、サイト！」

ピンポン

女ナレ「正解です、答えはサイトでした。

くさい（臭い）

いしゃ（医者）

けいと（毛糸）

シ「よく早く答えた、津田・・・！」

シノは高い場所におびえながらもタカトシを褒める。

女ナレ「タカトシさんとシノさんの命の棒、残り60cmです。スズさんへの問題です。3つの丸に文字を入れると何と言っ言葉になるでしょう？」

んし

じん

ほき

ス「派遣！」

ピンポン

女ナレ「正解です。答えは派遣でした。」

はんし（半紙）

じけん（事件）

ほんき（本気）

女ナレ「スズさんの命の棒、残り137cmです。」

またも早く答えたスズ。

次は安形の番である。

先に落ちるのはどっちか・・・？

続く

棒の間 その4

3つの穴埋め言葉クイズは、桜才学園チームの番が終わり、開盟学園チームの番が来ようとしている。

女ナレ「安形さんへの問題です。3つの丸に文字を入れると何という言葉になるでしょう?」

ち つ

み い

は ん

安形は少し考えている表情だ。

安「・・・コアラ。」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えはコアラでした。」

ちこつ（恥骨）

みあい（見合い）

はらん（波乱）

女ナレ「安形さんの命の棒、残り135cmです。」

安形「ちよつと時間使ってしまったかな。」

安形は少しはあくとした顔をしながらも余裕の表情を見せる。

女ナレ「榛葉さんへの問題です。3つの丸に文字を入れると何と言う言葉になるでしょう?」

きん

らい

はし

榛「んーとこれは・・・、最初はきれい?次はじらい?」

榛葉はいろいろと文字を入れる。

榛「はなし。ららな?(ブーッ)そんなのないな。」

榛葉は考えている間、棒はどんどん縮んでいく。

榛「きおん・・・、たらい・・・、はくし・・・、あつ、白紙。」

ピンポン

DANGERが出かけた瞬間に正解する。

女ナレ「正解です。答えはオタクでした。」

きおん(気温)

たらい

はくし(白紙)

榛「ミモリンごめん。ちょっと時間がかかった。」

榛葉は美森に謝る。

美「いや、そんなことはかまいません。私もこれはわからない所ありましたから。」

美森は笑顔で許す。

女ナレ「榛葉さんと美森さんの命の棒、残り49cmです。」

サポートルーム

椿「これはいい勝負ですね……。桜才の連中もなかなかやる。」

菊乃「ここからが勝負が決まる時ですね。」

アリア「シノちゃん達、がんばって。」

4 巡目

女ナレ「続いては3つの漢字にある部首をつけると、別の漢字になる部首入れ漢字クイズです。シノさんへの問題です。この3つの漢字には何の部首がつくでしょう?。」

刀・反・車

シ「えつとこれは……。」

シノは急いで考える。そして50cmを切り、DANGERと表示される。

タ「会長、棒がもうなくなります……、ってあーっ!!」

タカトシはシノに忠告をした途端、奈落の底へ……。

とシノがその時、

シ「しんによう!」

ピンポン

シ「ふう……。」

女ナレ「正解です。答えはしんにようでした。」

辺・返・連

女ナレ「ちなみに桜才学園チームのタカトシさん、脱出失敗です。」

シ「津田、すまない……。あと2秒早ければ……。」

男ナレ「副会長・津田タカトシ、必死の忠告をするものもシノが正

解する前に奈落の底へ、脱出失敗！」

女ナレ「シノさんの命の棒、残り30cmです。」

シ「怖い・・・、そして棒も短い・・・。私本当にまずい状況だ・・・。」

シノは高さと現在の棒の短さでさらなる恐怖にかられている。

女ナレ「スズさんへの問題です。この3つの漢字には何の部首がつくでしょう？」

白・立・卒

スズはあまり動揺せずに考える。

ス「羽！」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えは羽でした。」

習・翌・翠

女ナレ「スズさんの命の棒、残り114cmです。」

ス「まあ、卒に立につくものと言えは羽しかないじゃない。」

女ナレ「安形さんへの問題です。この3つの漢字には何の部首がつくのでしょうか？」

守・虫・者

安形も同様せずに考え。

安「けものへん。」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えはけものへんでした。」

狩・独・猪

女ナレ「安形さんの命の棒、残り115cmです。」

安形はスズを見て、

安「また君と並んだね。」

ス「う、うるさいわね！」

安形の挑発的な顔を見たスズはツンとした顔をする。

女ナレ「美森さんへの問題です。この3つの漢字には何の部首がつくのでしょうか？」

周・章・景

残り50cmを切っているため、DANGERと表示される。

美「なんでしょう、これ？」

考えている間にも棒が縮み続け・・・、

榛「ごめんミモリン、僕はここでサヨナラだ。」

榛葉の棒の足場がなくなり、榛葉は奈落の底へ・・・。

美「ござとへん？」

ブーツ

ヒント 右側につきます。

美「えつと・・・。」

そして棒はどんどんなくなり・・・、

美「あつ、だめですわ・・・。」

美森はしれつとした顔で奈落の底へ・・・。

安「ミモリンはこれは答えられなかったか・・・。」

女ナレ「桜才学園チームの榛葉さんと美森さん、脱出失敗です。ちなみにただいまの問題の正解は、さんづくりでした。」

彫・彰・影

男ナレ「榛葉、ミモリンにまかせてかつこよく落ちるも、肝心のミモリンも答えられずあえなく落下！庶務・榛葉道流・会計・丹生美森、脱出失敗！」

シ「スズ、安形さんを落とせば桜才学園の勝ちだ……。」

ス「それはわかってます。私も力をふりしぼります。」

――――

椿「とうとう開盟は会長だけになってしまったか……。」

菊乃「でも会長はIQ160です。頭脳は普通の人よりはるかに上です。」

これを聞いてアリアは、

アリア「あら、こちらの学園のスズちゃんのIQは180ですよ。」

これを聞いて2人は、

椿・菊乃「えっ・・・？」

少し驚いた顔をした。

次回、この棒の間がまさかの接戦になるとは・・・。

続く

棒の間 その5

棒の間で今、5巡目に入る。

桜才学園チームはタカトシが、開盟学園チームは榛葉と美森が落下し脱出失敗となる。

桜才学園チームは残り2人、開盟学園チームは残り1人。
果たして勝負の行方は・・・。

5巡目

引き続き、部首入れ漢字クイズ。

女ナレ「シノさんへの問題です。この3つの漢字には何の部首がつくでしょう?」

単・長・玄

シ「えーと、えーと・・・。」

考えている間にシノの足場の棒が除々になくなっていく。

シ「あああ怖い、棒がなくなる!」

パニックになり、考えられなくなる。

そして・・・、

シ「きゃあぁー！」

シノは奈落の底へ・・・。

ス「会長も落ちちゃったわ。」

スズは深刻な表情になる。

女ナレ「シノさん、脱出失敗です。ちなみにただいまの問題の答えは、ゆみへんでした。」

弾・張・弦

安「これでとうとうそっちのチームも1人になったね。」

安形は感情包み隠さずにスズに言った。

男ナレ「生徒会長・天草シノ、高さも短くなつた棒の恐怖でパニックになり答えられずに落下！脱出失敗！

これでとうとう各チーム1人となった！しかも2人ともまだ100cm以上の棒の長さである！この後、まさかのドラマが・・・。」

女ナレ「スズさんへの問題です。3つの漢字に共通してつく部首は何でしょう？」

由・回・西

スズは懸命に考える。

ス「えんによう！」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えはえんにようでした。」

延・廻

ス「これはレベル高いわね・・・。」

女ナレ「スズさんの命の棒、残り93cmです。安形さんへの問題です。3つの漢字に共通してつく部首は何でしょう？」

圭・里・則

安形は冷静に考える。

安「がんだれ。」

ピンポーン

女ナレ「正解です。答えは、がんだれでした。」

厘

安「これも難しめだったな。」

女ナレ「安形さんの命の棒、残り93cmです。」

ここで安形がスズに何かを言ってきた。

安「君に聞きたいことがある。」

ス「何？」

安「俺は普段はだらしなさそうにと言われるが、実はかなりの頭脳明晰でね、IQは160と言われる。」

それを聞いてスズは、

ス「IQ160？何よそれくらい！私はIQ180の帰国子女！10桁の暗算も朝飯前！英語ペラペラ！物の誤差もミリ単位で見極められるわ！」

安「ほう、俺よりIQが高いのか。でも低身長がコンプレックスなんだね。」

これを聞いて、スズはキツとなる。

ス「ムキーーーー！言っではならないことを！」

スズは怒り始めるが安形はさらに言う。

安「こんなお子さま体系な生徒も生徒会の一員なんて、君の学校の生徒会も色々変わり者が多いな。まあ幼女のような生徒も生徒会のマスコットぽくっていいな。」

安形の挑発的な言動にスズは、

ス「ムキーーーーー！また子供扱いしたわね！絶対生き残ってやるわ！」

そして・・・、

スズの番

女ナレ「何の部首が入るでしょう？」

区・谷・金

ス「かける・けんづくり！」

ピンポーン

欧・欲・欽

安形の番

民・兆・玄

安「めへん。」

ピンポーン

眠・眺・眩

スズの番

少・多・失

ス「のぎへん。」

ピンポーン

秒・移・秩

安形の番

亡・工・文

安「むしへん。」

ピンポーン

虻・虹・蚊

男ナレ「この2人は死闘は思いがけないものとなった！そして勝負は10巡目経つても続く……。」

安形の番

包・化・安

安「かわへん。」

ピンポーン

鞆・靴

現在の棒の長さはスズが17cm、安形が18cmとなった。

サポートルーム

椿「これは本当にすざまじい戦いだ。藤崎の時よりもすごい……。

」

椿は長い戦いに驚くばかり。

菊乃「でも次が勝負時ですね。もう2人の棒も20cm切っているわ。」

アリア「スズちゃん、がんばって……。」

アリアもこの戦いを見て真剣な表情となっている。

女ナレ「スズさんへの問題です。3つの漢字に共通してつく部首は何でしょう?」

巨・各・兆

スズは冷静に問題を見る。

ス「あしへん!」

ピンポン

女ナレ「正解です。答えは、あしへんでした。」

距・路・跳

女ナレ「スズさんの命の棒、残り3cmです。」

ス「まだ終わらないわ・・・!」

スズは残りわずかな足場にたえるようにトイレのスッポンに必死にしがみつく。

女ナレ「安形さんへの問題です。3つの部首に共通してつく漢字はなんでしょう?」

川・豆・丁

安形は考える。

安「おおがい。」

ピンポン

順・頭・頂

安形が正解したその時、

安「あつ、これもうだめだ・・・。」

残り2cmになった所で安形は奈落の底に落ちてしまった。

サポートルーム

椿「会長が落ちてしまった・・・。」

落胆する椿。

菊乃「残念でしたね。」

アリア「やった！桜才学園の勝ちね！」

喜びの表情になるアリア。

女ナレ「安形さん、脱出失敗です。」

ス「ということは・・・？」

女ナレ「桜才学園生徒会チーム、3rdステージ進出決定です。」

脱出成功

ス「やったわ・・・！」

そして床が元に戻る。

そして脱出口が開く。

ガチャン

ス「確か11巡目の問題、私が安形さんより1秒早く早く答えられたわね。」

そこまでスズは計算していたようだ。

スズは外に出る。

女ナレ「大接戦の結果、見事萩村スズが死闘を制し、桜才学園生徒会チーム。3rdステージ進出決定！」

3人はサポートルームに戻る。

管理人「いやいやいや、この戦い今まで見たことないよ！10巡目になっても勝負がつかないって。」

タカトシ「自分もこの戦いには驚きましたよ。」

スズ「私の方がIQが高かったから勝てたのよ。安形さんより、1秒早く答えられたし！」

安形「まあ、君が小さかったから、勝てた要因もあるな。俺より足もはるかに小さいからあんな短くなつた棒も耐えられたからな。俺だったら耐えられなかったな。」

この言葉にスズは、

スズ「ムキーー！また小さいと言つたな！」

スズは安形につっかかろうとしたが、タカトシに止められた。

タカトシ「でも俺もそう思つたな。萩村の子供体系がチームに勝利を呼んでくれて・・・。」

タカトシがそう言うとスズは、

ギョツ！

タカトシ「痛てっ！」

スズはタカトシの足を踏んだ。

アリア「ふふふ。」

アリアはこれに笑う。

管理人「はははは。」

管理人も苦笑い。

安形「これは見事な戦いだった。こっちの完敗だよ。」

シノ「あなた方もよく戦ってくれました。」

安形とシノは握手する。

菊乃「会長は負けましたけど、これはいい戦いだと思いました。」

椿「負けた会長ですけど、これは悔いのない戦いでした。」

美森「やっぱりあれが1番会長らしい所ですね。」

榛葉「本当にすごかったよ。」

安形「みんな、ありがとう。」

安形は4人の感謝の言葉を言った。

さあ桜才学園生徒会チームは賞金をかけて、3rdステージに挑む、果たして賞金を獲得できるか……。

棒の間 その5（後書き）

西のえんによろ・圭と則のがんだれ・安のかわへんという漢字の読みがわからなかったので、書けませんでした。でも実際にある漢字です。ちゃんと調べたので間違いはありません。

壁の間 その1

見事開盟学園生徒会チームに勝利した桜才学園生徒会チームが挑戦する賞金獲得ステージは壁の間。

挑戦するのは、天草シノ・津田タカトシ・萩村スズの3人。

3人は腰にフックがつかない状態でおり、そのフックが壁につけられる。1番重要なカギを握るのはまずまずの活躍を見せるも今日脱出のないタカトシ。ここで初めての脱出となるか!?

果たして3人はクリアして賞金獲得となるか・・・。

そしてクイズゾーンのドアがロックされる。

ガチャン

女ナレ「目隠しを外してください。」

3人は目隠しを外す。

シノ「何だか前とは対照的に一気に近代化した場所のようだ。」

タカトシ「会長!腰に何かついてますよ!」

シノ「見ればわかってる。」

あわてる様子のタカトシに対し、棒の間とは対照的にここでは冷静なシノ。

スズ「こんな所へ連れてきて、おまけにこんなにつけられて、一体これから何をするつもりなの!」

そして管理人が現れる。

管理人「ようこそ壁の間へ！とうとうここまで来ましたね、生徒会長のシノちゃん。」

シノ「私たち生徒会の力を振り絞れば、ここまで来たのはたやすいことだった。」

タカトシ「いや、俺と会長、棒の間で落ちたでしょう……。」

シノの強気なセリフに、タカトシはあきれる様子だった。

管理人「それよりもタカトシ、今日まだ1回も脱出してないでしょ？ここは脱出しないと副会長の面目丸つぶれだよ。」

タカトシ「いや、僕もがんばっているんですが、間が悪くて脱出できなかつただけで……。」

スズ「言い訳をするな津田！」

タカトシの言葉をスズが一蹴した。

管理人「それではこの部屋で生き残るためのルールを説明しましょう。」

この部屋は今から左右の壁が迫ってきます。全問正解クイズに3問正解すれば壁が止まり、脱出の為のキーボックスチャレンジに1人ずつ挑戦できます。そして1人でもこの部屋から脱出できれば、賞金を獲得できます。」

ここまでは通常のルールだが。

管理人「今回は特別ルールです。脱出人数ごとに獲得賞金が変わります。3人脱出成功なら50万円獲得できます。2人なら30万円、1人なら10万円。」

タカトシ「50万円!？」

タカトシは仰天する。

シノ「なぜ最高が50万円だ？普通は何人脱出しても10万円はずだが。」

シノの質問に管理人は、

管理人「それはスポンサーがミモリンのお父さんの会社だからです！」

シノ「ほう、そうか。」

――――

サポートルーム

安形「ミモリン、丹生グループって、気前のいい所あるな。」

美森「いえ、実は私が今回の賞金を上げてくださいと頼んだので。」

椿「丹生の一言で賞金上げるって……。」

美森の行動に椿は突っ込むような顔をする。

榛葉「やれやれだな。」

アリア「賞金の額はともかく、ここまで来たのだからぜひクリアしてほしいわね。」

――――

管理人「それでは皆様、幸運を祈ります、バイバーイ。」

モニターから管理人が消える。

女ナレ「アンサーボックスに顔と手を入れてください。」

3人はアンサーボックスに顔と手を入れる。

男ナレ「アンサーボックスにはAとBの選択ボタンがあり、ここから3人は全員正解クイズに挑む！」

制限時間は5秒。選んだ答えは全員が決まるまで誰も知らされない。

女ナレ「それでは壁が動き出します。」

ウィーンウィーンウィーンウィーン

脱出開始

シノ「始まったようだ。」

そして壁が動き出す。

タカトシ「あっ動き出しましたよ！」

スズ「本当に動いてるわね。」

クイズゾーンの壁が閉じるまで3m60cmある。

尚、ここからは、シノ シ、タカトシ タ、スズ スと省略します。

女ナレ「それでは問題。」

問題・『会つ』の謙譲語はどっち？

A・お会いになる B・お目にかかる

5

4

タ「え？どっちだったっけ？」

3

2

1

テレシ！

シノ B タカトシ A スズ B

タ「あつ・・・。」

女ナレ「正解はBでした。」

ブーッ

シ「何をやっている津田！」

タ「すいません。」

ス「次はミスるなよ！」

問題・先にデビューしたのは？

A・豊崎愛生 B・高垣彩陽

5

タ「ええ？」

4

3

シ「多分こっちの方が感じがするな。」

2

1

テレン！

シノ B タカトシ B スズ B

女ナレ「正解はBでした。」

ピンポーン

タ「よかった・・・。」

女ナレ「1ポイント獲得です。」

問題・女性が結婚できる年齢は？

A・16歳 B・18歳

5

4

3

タ「これだよな・・・？」

2

1

テレン！

シノ A タカトシ A スズ A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポーン

女ナレ「2ポイント獲得です。」

問題・ヘキサゴンはどっち？

A・五角形 B・六角形

5

4

シ「津田、わかるな。習ったはずだ。」

3

タ「これはわかります。」

2

1

テレん！

女ナレ「正解はBでした。」

ピンポンピンポーン

五角形はペンタゴン。

そして壁が一時停止する。2 m 4 9 c m。

女ナレ「3ポイント獲得したため、壁が止まりました。1人分のフックが解除されます。」

シ「誰だ取れる？」

ピーーーーー

カチャン

フックが外れたのは・・・スズだ。

ス「私のが取れたわ。」

タ「萩村、頼むぞ。」

ス「わかってるわよ。」

女ナレ「スズさん、キーボックスチャレンジスタートです。」

男ナレ「キーボックスチャレンジとは、ボックスから特性アームを使いカギを取り出し、その先にあるカギ穴に差してまわすと、セーフティゾーンの扉が開く。最終的に3人で3本のカギをカギ穴に差して回せば脱出成功となる。但し30秒を過ぎると壁が一気に迫り、脱出失敗となる。」

クイズゾーンからセーフティゾーンまで10mある。

女ナレ「スズさん、キーボックスチャレンジスタートです。」

ス「ここは絶対取るわよ。」

ビー――

そしてキーボックスチャレンジの扉が開く。

スズはボックスの所へ行く。

シ「慎重のやるのだぞ。」

アームを動かす。

ス「これは掴む角度や入れる位置の数ミリの誤差が大きく影響するわ。慎重に入れないと……。」

スズは持ち前のIQで誤差を言いながらカギをアームで掴む。

ス「ゆっくり、ゆっくりと……。」

カギを上へ上げ、ゆっくりとアームを動かす。

女ナレ「20秒前。」

ス「ここからよ……。変に動かすとカギが曲がってしまうわ。」

冷静にカギ穴に動かす。

そしてカギを穴に入れる。

カチャン

ス「入った!」

そしてカギが出てくる。

ス「おっ、いいぞ。」

女ナレ「10秒前。」

そしてスズは鍵を差し込みに行く。

くるり

1番にカギを差し込んだ。そしてスズはセーフティーゾーンに走る。

余裕で行けた。

ス「ふん、こんなものよ。」

そして壁が完全に閉じる。

女ナレ「脱出口のカギが1つ解除されました。脱出までの残りのカギはあと2本です。」

カギ？解除 残りあと2本

サポートルーム

アリア「スズちゃん、よく出来たわね。」

安形「かなりうまく計算して入れたな。」

サポートルーム全員はスズを褒め称える。

シ「スズに続けて私たちもカギを取れるようにするんだぞ。」

タ「わかってますよ会長。」

果たして残り2本のカギも解除することができるか……。

続く

壁の間 その2

キーボックスチャレンジでカギを取り、見事1つ目のカギを解除することができたスズ。

さあこの調子で次もカギを取ることができるか・・・。

女ナレ「再び、壁が動き始めます。」

壁が再び動き始める。2m49cmからスタート。

シノとタカトシはクイズのボックスに顔と手を入れる。

シ「私たちもスズに続けて、カギを手に入れるようにしよう。」

シノはタカトシに言う。

問題・来年の干支は？

A・へび B・辰

5

4

3

タ「えっと・・・。」

2

1

テレシ！

シノ A タカトシ A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポーン

辰は2013年

女ナレ「1ポイント獲得です。」

タ「あぶない、あぶない……。」

問題・さよなら絶望先生の糸色望先生が担任を務めるのは？

A・へ組 B・の組

5

シ「どっちだったかな……？」

4

タ「あまりわからないな……。」

2

1

テレシ！

シノ B タカトシ A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ブーッ

シ「津田、すまない。」

タ「いえ、いいです。俺も勘だったから。」

問題・多いのはどっち？

A・RAINBOW B・少女時代

5

4

タ「こっちの方が結構多かったような・・・。」

3

2

1

テレン！

シノ B タカトシ B

女ナレ「正解はBでした。」

ピンポーン

RAINBOW 7人 少女時代 9人

女ナレ「2ポイント獲得です。」

シ「あと1問だな。」

問題・年下はどっち？

A・戸松遥 B・寿美菜子

5

タ「えっと・・・。」

4

シ「外見ではない。2人の年齢をよく思いだすんだ。」

3

2

1

テレン！

シノ B タカトシ B

女ナレ「正解は、Bでした。」

ピンポンピンポーン

戸松 遥 21歳 寿美菜子 20歳 (2011年10月現在)

そして壁が一時停止する。1m44cm。

女ナレ「3ポイント獲得したため、壁が止まりました。1人分のフックが解除されます。」

シ「取れるのは津田か？私か？」

ピーー

カチャン

フックが外れたのは・・・シノだ。

シ「あ、私だ。」

タ「会長の方ですか!？」

女ナレ「シノさん、キーボックスチャレンジ、スタートです。」

ビーーーーッ

そして扉が開く。

タ「会長、あわてないでくださいよ。」

シ「私はこんなことではあわてない。」

シノはボックスの所へ向かう。

そしてアームを握る。

シ「急がずそつとだ……。」

慎重にアームでカギをつかむ。

そして上に持ち上げる

次にカギ穴の所に入れようとする。

女ナレ「20秒前。」

ナレの声が聞こえた3秒後。

ストン

無事にカギを入れ、カギが取り出し口から出てきた。

するとシノは、

シ「津田の負担を軽くするためにもう1回やってみよう。」

タ「えっ？」

――――

サポートルーム

椿「えっ、彼女やるつもりですか!？」

椿はこれに仰天する。

アリア「シノちゃん、ここで2本取ったらすごいかもね。」

――――

男ナレ「なんとシノ、ここで2本取りにチャレンジ、果たしてうまくいくか!？」

シノは再びアームを握る。

そしてカギをつかむ。

女ナレ「10秒前。」

そしてカギを動かそうとしたが、うまくカギをアームで動かせない。

そしてシノは最終的に、

シ「これはちょっと時間的にもまずい。ここでやめよう。」

シノは2本取りをあきらめ、カギを差し込みに行く。

カギを差し込んで、セーフティゾーンに走って向かう。

そしてセーフティゾーンのついた瞬間0秒となり、壁が動き始める。

シ「さすがにカギを2本取る時間はなかった。」

タ「やっぱり会長でも2本取りする時間はなかったか。」

サポートルーム

アリア「やっぱり無理があつたかしら2本取り。」

榛葉「まあ、自分の安全確保のためだつたら仕方ないな。」

女ナレ「脱出口のカギが1つ解除されました。脱出まで残りのカギはあと2本です。」

カギ??解除 残りあと1本

シ「津田ー。あとはお前がカギを取れば脱出成功だ。」

ス「絶対取りなさいよ！でないと私たちまで脱出できないことになるのだから！」

2人の声にタカトシは、

タ（あとは俺か。もし俺が取れなかったら、会長と萩村まで脱出できないことになるな・・・）

タカトシは脱出までの残り1本のカギに関してのプレッシャーを感じる。

果たしてタカトシは最後のカギを獲得して、桜才学園生徒会に賞金獲得の夢を果たすことができるのか・・・。

続く

壁の間 その3

シノもカギを1本取り、脱出まで残りあと1本となった。
全てはタカトシに託された。果たしてタカトシは最後の鍵を取るこ
とができるか・・・。

女ナレ「再び、壁が動き始めます。」

壁 再始動

再び壁が動き出す。

タ「もう狭くなってきたから、慎重に答えないと・・・。」

問題・先に起きた出来事は？

A・オイルショック B・沖縄返還

5

4

タ「えっと、どっちだったっけ・・・。」

3

2

1

テレン！

タカトシ B

女ナレ「正解は、Bでした。」

ピンポーン

オイルショック 1973年 沖縄返還 1972年

女ナレ「1ポイント獲得です。」

タ「よし、合ってた。」

問題・先にアニメ放送が始まったのは？

A・名探偵コナン B・ポケットモンスター

5

タ「こっちの方が歴史古いと思うから・・・。」

4

3

2

1

テレン！

タカトシ A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポーン

名探偵コナン 1996年 ポケットモンスター 1997年

女ナレ「2ポイント獲得です。」

タ「あと1問・・・。」

問題・レバーはどっち？

A・肝臓 B・心臓

5

タ「確かこっち・・・。」

4

3

2

1

テレン！

タカトシ A

女ナレ「正解は、Aでした。」

ピンポンピンポーン

そして壁が一時停止する。残り76cm

タ「よし、止まった！これでフックが外れる！」

女ナレ「3ポイント獲得したため、壁が止まりました。1人分のフックが解除されます。」

ピーーーー

カチャン

そしてタカトシのフックが外れる。

タ「取れた、これで動ける！」

シ「津田、これは絶対に取りようにするんだぞ。」

ス「取れないと私たちまで脱出失敗となるんだから！」

タ「は、はい。（これで俺が力ギを取れなかったら、会長や萩村まで脱出失敗となる。これは責任重大だ。取れなかったら2人に申し

訳ない。」

男ナレ「ここでタカトシがカギを取れないと、セーフティゾーンにいるシノとスズも脱出失敗となる！全ては、桜才学園生徒会・副会長に託された！」

女ナレ「タカトシさん、キーボックスチャレンジスタートです。」

ビー——

扉が開き、タカトシはボックスへ向かう。

アームを掴む。

しかし、プレッシャーの為か、うまくカギを掴めない。

タ「そつと、慎重に……。」

タカトシはつぶやきながら、なんとかアームでカギを掴む。

そしてカギを上を持ち上げる。

ス「萩村、がんばって……！」

タカトシがカギを取れるようにスズは祈っている。

女ナレ「20秒前。」

カギを上に向け、カギ穴へ動かそうとするが。

タ「ああっ・・・！」

カギが少し曲がってしまった。

サポートルーム

アリア「津田君、落ち着いて・・・！」

アリアも祈るように、手を合わせる。

開盟学園生徒会の5人も静かに見守る。

なんとか、タカトシはカギをまっすぐに戻し、改めてカギを穴に移動しようとする。

女ナレ「10秒前。」

タカトシは、カギを穴付近に持ってきた。

タ「慎重に・・・。」

タカトシは少しずつ、カギを穴に移動する。

そしてカギが穴に入る。

ここで残り3秒になる。

ストン

鍵が出てくる。

タ「よし！」

タカトシはカギを手取る。そして差し込み口に向かう。同時に・・

ビーー　ビーー

壁が動き始める。

タカトシはカギを差し込む。そして立ち上がろうとした時、

タ「あああああー！」

タカトシは壁に押しつぶされてしまった。

シ「津田ーーーーー！！」

シノは潰されるタカトシに叫ぶ。

タ「会長〜」。　「

そして扉が閉まる。

女ナレ「タカトシさん、脱出失敗です、ただし、脱出口のカギは解除されました。」

ス「というと・・・？」

女ナレ「ステージクリアです。」

脱出成功

シ「脱出か・・・。津田の犠牲は無駄ではなかった。」

サポートルーム

アリア「津田君、ちゃんとカギ差し込んだのね。」

アリアは拍手する。

安形「ほう、すごいじゃないか。」

安形ら開盟学園生徒会も拍手する。

男ナレ「タカトシは脱出失敗したのも、カギはきちんと差し込んでいたので、他の2人は脱出成功となった！」

シ「津田には少し感謝しないとな。」

ス「まあ、そのくらいはしないとね。」

女ナレ「それでは、脱出口へどうぞ。」

脱出口が開く。

2人は脱出口から出る。

男ナレ「桜才学園生徒会、見事3rdステージクリア！」

壁の間 その3 (後書き)

次で本当に最後です。

結果発表　そして・・・

3人はサポートルームに戻る。

管理人「いやー、脱出おめでとう！3人とも安定感あつたよ！」

シノ「まあ、あれは慎重にやったから出来たものだ。」

管理人「でもお気の毒なのが、その副会長だけが力ギ取つたのに
つぶされちゃったってこと。」

周りはタカトシを見る。

タカトシ「で、でも最後俺が決めたから、会長と萩村は脱出できた
んですよ！」

管理人「まあ、あれは女子2人の努力を無駄にしないためにも、必
死の力ギ取り出しだっただろうね。そこは認めるよ」

アリア「ふふふ。」

アリアは笑う。

管理人「今回の結果、生徒会役員共・桜才学園生徒会チーム、2人
脱出だったので30万円獲得！」

シノ「あつ、そういえば今回は賞金が多かつたな。」

美森「じゃあ私が賞金を手渡ししますよ。」

タカトシ（ちょっと、対戦相手が賞金を出すって……。）

椿（普通、テレビ局が出すはずだろ！）

副会長同士は美森に行動に心の中でツッコむ。

美森は小切手を取り出して書いて、それをシノに渡す。

小切手には¥300,000と書かれていた。

タカトシ「意外とあっさり……！」

タカトシは仰天する中、他の3人は、

シノ「ほお、これが小切手か。私初めてみるな。」

アリア「私はよく見るわね。」

スズ「この賞金、何に使うのですか？」

シノ「それは後からのお楽しみだ。」

そして本番が終わって……

椿「じゃあ会長、もう帰りましょう。収録終わりましたし。」

安形「そうだな。じゃあみんな帰るぞ。桜才のみんな、いい戦いだ

った。ここでお別れだ。」

シノ「はい、またいつか顔を合わせる日を待っています。」

敬語で開盟学園生徒会を見送るシノ。

榛葉「じゃあな。」

スズ「はい、また会える機会を。」

開盟学園生徒会はスタジオから出て行った。

アリア「じゃあ私たちも帰りましょう。」

シノ「そうだな。」

桜才学園生徒会が帰ろうとした時、

スタッフ「シノさん、タカトシさん、ちょっとこちらへ来てくれませんか？」

スタッフがシノとタカトシを呼び止めた。

タカトシ「はあ。」

シノ「アリア、スズ、悪いが先に帰ってくれないか？」

シノはそう言うとアリアとスズは先にスタジオを出る。

アリア「スタッフさん、シノちゃんたちに何か用なのかしら？」

シノとタカトシは別室へ連れてこられる。

シノ「ご用件は？」

スタッフ「実はですね・・・。」

それを聞いてタカトシは、

タカトシ「ええっ！？今度はそれに！？会長と2人で！？」

シノ「ほう、これは私も楽しみだな。」

果たしてシノとタカトシがスタッフから聞いた内容とは・・・？

終わり

結果発表　そして・・・（後書き）

これにて、『アニメキャラ限定　脱出ゲームDERO!』シリーズはひとまず終わります。

次回から、『アニメキャラ限定　謎解きバトルTORE!』シリーズに突入します。

見ている皆さん、ご期待ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1056x/>

第5回アニメキャラ限定 脱出ゲームDERO!

2011年11月12日19時11分発行